

安倍元首相 国葬

全額国費、賛否割れる中

安倍晋三元首相の国葬が27日午後、東京・日本武道館で執り行われた。210超の国と地域、国際機関の代表団を含めて国内外計4300人程度と見込む参列者が、安倍氏を追悼した。首相経験

者の国葬は戦後2例目で、吉田茂元首相以来、55年ぶり。概算で総額16億円超の費用が全額国費負担となる点も含め、反対の世論は根強い。弔意の強制につながるとの批判もやまず、一部の野党が

欠席するなど賛否が割れる中での開催となった。国葬では岸田文雄首相が葬儀委員長を務め、三権の長、国会議員、都道府県知事、各界代表らが参列。ハリス米副大統領やインドのモディ首相ら

海外要人も列席した。立憲民主党は泉健太代表ら執行役員が欠席し、共産党などは党として出席を見送った。会場近くの九段坂公園では一般献花が実施された。

安倍氏は7月8日、奈良市で参院選の応援演説中に銃撃され死去した。首相は14日に国葬とする方針を表明し、22日に実施を閣議決定した。

首相はこの閣議決定と、国の儀式を所掌事務と定めた内閣府設置法が国葬の法的根拠になると説明した。だが安倍氏と深い関係にあるとされた世界平和統一家庭連合(旧統一教会)を巡る問題も影響し批判が高まった。

政府は府省庁での弔旗掲揚と黙とうを決めた一方、教育委員会などには協力を求めなかった。



日本武道館で行われた安倍元首相の国葬。下は追悼の辞を述べる岸田首相。27日午後2時29分、東京都千代田区